巻　頭　言

深谷　賢治
京都大学大学院理学研究科

国際数学者会議は今年の夏にインドで開かれたが，同時に国際数学者連合総会も開かれている．

国際数学者連合の理事会（Executive Committee）は国際数学者連合総会で選ばれるのだが，実は最近２回，日本人の理事は選ばれていない．それ以前は継続的に日本人理事が選出され，柏原正樹氏や森重文氏は副総裁になっている．

実は, 日本から理事が出なくなった前回のときの, 日本人の理事候補者は深谷であった．その前の森・柏原氏とはもちろん比べるべくもなく，落選したのが理事が出なくなった始まりである．

昔から, 数学会の理事長とか, 大学の学部長とかは, やりたくない人がやるのがよくて，やりたがっている人に任せるとろくなことはない，という話しはよく聞く．次第に大変になっている数学会の理事会の方々，特に理事長のご苦労を眺めていると，やりたくないというのはよく分かる．もし，是非やりたいという人がいるとすると，確かに何がなさりたいのか心配になってくる．（もちろん，数学会の大改革のために，個人の都合はすてて，大奮闘してくださるつもりで，理事長をやりたいという方もおられるかもしれないが.）

国際数学者連合の理事についても，個人としては，日本語でも会議で適切な発言をするのが苦手な人間が，英語で会議をするなどというのは，とんでもないので，落選は大変ありがたかったが，そのせいで日本の数学の国際的なプレゼンスが低下したとすると，大変申し訳ない気持ちである．

大学運営は大学運営のプロに，大学教育は大学教育のプロに，それぞれまかせなさい，それは研究とは違う仕事です．というような意見を世間で聞くことも増えてきた．

数学研究と数学の教育は一つのことです，というのは理想で，それを１年生から始まる教育のすべてに安易に当てはめるのは無理があるにしても，数学を自分ですることと完全に切り離した「教育の技術」が大学教育で一番大事であるという考え方は，私には納得しがたい．

提出する書類の締め切りを覚えられない私のような人間には，数学会の運営はできないにしても，自分の活動の重心を，研究教育活動からどこか他の所に移してしまった人は，数学者団体の代表には不適当であろう．

日本数学会はまだ，私のように学会運営などについて無能な人間にも理解できるサイズの組織であり，日本数学会理事長はまだ，現役の数学者のボランティアでなんとかつづいている．

国際数学者連合総裁はどうなんだろう？